

令和 1 年度

## 会派 新政会行政視察報告書

1 日程 令和 1 年 7 月 1 日（月）～3 日（水）

2 調査（視察）場所・事項

北海道砂川市、石狩市：地域交流センターゆう、こども未来館あいぽーと

3 出席議員（新政会議員）

栗原肇会長・小勝裕真・柿沼秀雄・齋藤理史・金子正則・山下雄希

4 調査結果（別紙のとおり）

## 北海道砂川市

### ○砂川市の概要

【人口】17,694人 【令和元年度一般会計予算額】11,569,000円 【議員数】13人

砂川市（すながわし）は、北海道中部（道央地方）に位置し、空知総合振興局管内に属する市。かつては石炭産業で栄えており、現在は市内に菓子店が多いことから「砂川スイートロード」としてPRしている

### 地域交流センター「ゆう」について

#### ○概要

【住所】北海道砂川市東3条北2丁目3-3

【敷地面積】約12,705㎡ 【建物面積】約3,478㎡ 【指定管理者】NPO法人ゆう

地域交流センターゆうは、砂川駅直結の文化交流施設であり、大ホールや研修室等の貸館やエントランスを交流スペースとして貸し出しており、世代・ジャンルを超えた様々なイベントを開催しております。平成28年には、地域創造大賞（総理大臣賞）を受賞しています。

### 主な質問事項

#### (1) 施設整備までの経過について

平成14年に市民10人による土地の地活用懇談会を行い、委員会を設置し、平成15年には地域交流センター運営協議会準備会が設置されました。協議する項目としては、市民による管理運営の可能性を協議したり、市の運営など整理することでした。平成16年には、NPOが動き地域交流センター運営協議が設立され、管理運営の基礎知識の研修や運営方法、利活用促進・自主事業企画・利用規則等協議を重ね平成18年にNPO法人ゆうが設立し、平成19年に、砂川市地域交流センターゆうがオープンしました。

#### (2) 年間の利用者数と年齢層について

利用者については、子供からお年寄りまで幅広く利用し活動主体が大人であることから、成人層の利用者が比較的に多いです。その他にも、音楽コンサートや地域のイベント等もこの施設を使用される為、他の市からも来られる方が多いです。

#### (3) どのような利用が多いのか、砂川市の事業での利用について

市民からの要望で、子供の利用スペースに幼児用の低いトイレや赤ちゃんがお漏らしをしまった時のシャワー完備などがあり、意見を取り入れ、設置したことで更に利用者が増えた。また、駐車場が広いので、年に数回フリーマーケットを行ったり、お祭りなどの行事も行

っている。

(4) 今後の課題について

事務職員、技術職員が高齢の為、若手への世代交代に向けた人材の育成や経年劣化による施設・設備の改修が課題とされています。

## 所感等

砂川市のように地域交流センターを市民による管理運営の方法は、有効な手段だと考えます。施設利用者の目線で、物事を考えることができ、市民と行政の交流も増えるので加須市の更なる活性に繋がると感じた。市民プラザの駐車場を活用してイベントや祭りを行うのも一つの活用方法だと思う。

## 北海道石狩市

### ○石狩市概要

【人口】58,329人 【令和元年度一般会計予算額】28,226,000,000円 【議員数】20人

石狩市（いしかりし）は、北海道中央西部（道央地方）に位置し、石狩振興局管内に属する市。札幌市の北郊に隣接している。振興局北部の海岸線に沿って、南北に長い市域を持つ。西は石狩湾に面し、石狩川河口を有する。南は発寒川、茨戸川を隔てて札幌市と、東は同じく南北に長い当別町と、北部は暑寒別天売焼尻国定公園の山地で新十津川町や増毛町と接している。南部は標高10m以下の砂丘と低地、石狩川河口より北部には石狩丘陵をはじめとする丘陵地帯が広がっている。

### こども未来あいぽーとについて

【住所】北海道石狩市花川北7条1丁目22番地

【敷地面積】約3571.39㎡ 【建物面積】約1024.91㎡

#### 【運営形態】

児童センター運営事業（児童館）

- ・指定管理：特定非営利活動法人（スタッフ4名）
- ・全ての児童（18歳未満）に健全な遊びを与え、健康の増進と情操を豊かにすることを目的とする。

放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

- ・業務委託：特定非営利法人（スタッフ4名）
- ・保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校の子どもたち（小学校1年生から3年生）に対し、授業終了後の適切な遊び及び生活の場を提供している「花っ子クラブ」が併設されている。

地域子育て支援拠点事業

- ・0歳から3歳児とその親のために、当事者相互の交流を図り、子育ての不安や悩みを相談し、助言や援助を受けられる場所で、子育て中で外出機会の少ない保護者の孤独感や不安を緩和し、子供の健やかな成長を支援することを目的とする子育て広場「りとるきっず」が併設されている。子どもの一時預かり（有料：800円/h）も行っている。

### 主な質問事項

#### (1) 市民からの要望について

市民会議を設置し、ハード・ソフト両面の視点から利用する子供達にどのような施設にしたいか話し合いの場を設け、学識経験者を中心に11名（NPO法人（子供関係）、市民、大学教

授)による会議を行い、児童等からアンケートを取り、要望として飲食スペースの設置や中高生でも利用できる体育館の整備・防音・音響設備のある部屋を設けた。効果として地域の子供達の利用や、学校に登校していない子、ひきこもり児童生の利用など不登校対策ができました。

## (2) 今後の課題について

子供の自主的な活動のできる環境づくり、子供の意見を反映できる運営や活動を心掛け、安心・安全な施設づくりを更に行っていく。

## 所感等

参考になった取り組みとして子ども会議を月に1回、施設を利用する小学3年生から高校生の子供達で構成する定例会議が行われており、自分達で施設の使い方やルールを話し合ったり、いろいろな遊び方を考えたり、行事の企画を行ったりすることで、施設を大切に扱う心を養うだけでなく、異年齢間交流を図っている。また、10代のベビーシッター養成講座もあり、小学5年生から高校生までを対象としたベビーシッター養成講座を行っており、講座終了後は、同施設内の「りとるきっず」にてベビーシッターボランティアとして1年間登録することができ、土曜日や学校休業日など都合のよい時間にスタッフとして働くことができる。尚、スタッフの子どもたちは、1回(3時間程度)につき500円の図書カードがもらえるなど、加須市でもこのような取り組みを取り入れることができれば、子供達の良心を育むことができ、不登校対策や、市への愛着も育むことができると感じた。